

名 称	神崎市体験活動・ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒842-8502 佐賀県神崎市千代田町直鳥166-1
連 絡 先	TEL : 0952-44-2731                      FAX : 0952-44-2152  URL : <a href="http://www.city.kanzaki.saga.jp/">http://www.city.kanzaki.saga.jp/</a>

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口     神崎市    33,917人

神崎市は、佐賀県の東部に位置し、東は神埼郡吉野ヶ里町及び三養基郡、北は佐賀市三瀬村及び脊振山地を隔てて福岡市、南は九州の大河、筑後川を挟んで福岡県久留米市城島町、西は県都の佐賀市と隣接している。地形は、城原川、田手川及び嘉瀬川の源流部を成す脊振山を最高峰とする北部の山間地域と、同河川が潤す肥沃な平野からなる南部の穀倉地帯に分別される、縦に細長い形を成している。

神崎市においては、ほぼ中央をJR長崎本線と国道34号線が東西に横断し、その北側に長崎自動車道（高速道路）と県道31号（佐賀川久保鳥栖線）が並走している。

地目別では、山林・原野などが約66%を占めており、田畑が28%、宅地は全体の5%強であり、緑豊かな環境が広がっている。平成18年3月20日に神埼町、千代田町、脊振村の2町、1村が合併して神崎市となる。



## 事業の名称、活動概要

名称 神崎市子どもまつり

第8回子どもまつりは、神埼中央公民館、神埼保健センター、神埼中央公園グラウンド、神埼中央公園体育館の4会場で、実行委員等約600名の住民ボランティアにより開催。4会場で38のコーナーがあり、約6,600名の参加者でどのコーナーも子どもたちの笑顔であふれ、子どもたちは様々な体験をし、体験を通して自分に自信を持ち、未来に夢

を持って生きることのできる人づくりを目指す。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

子どもたちが、「無気力、無感動、無関心」と言われていたとき、子どもたちの心の琴線に触れる・大人になっても心に残る感動を、また、様々な体験をすることで子どもたちが育つという思いで実施計画を立てたのが発端である。

子どもたちを地域で育てるという意識を持って活動しているサークルや子どもたちに関わる団体で実行委員会を組織することを計画した。まず各団体に呼び掛け、イベントの主旨に賛同をいただき、実行委員会を立ち上げることにした。

実行委員会には、保育園、幼稚園、学校、地域、各種団体が参加し、各団体がそれぞれの役割を担うことにした。毎年内容は充実し、参加者も参加団体も増えてきており、この事業によって保育園や学校、地域の方々、各種団体との連携が図られ、面識ができ、地域の大人の持つ知識や経験が学校や地域、他の事業等にも活かされるようになり、地域の教育力の向上、更には青少年の健全育成が図られている。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

子どもたちを地域で育てるという意識を持って活動しているサークルや子どもたちに関わる団体で実行委員会を組織することとし、各団体に呼びかけ支援センターに参集していただきイベントの主旨を説明し、理解していただき実行委員会を立ち上げた。

すべての園、小中学校、サークルや各種団体から代表者1名出してもらい、実行委員に委嘱し、そのメンバーで実行委員会を開催することにした。

子どもたちの声を聞くため、学校に依頼し全小中学校生徒からアンケートを取っていただき、内容検討の基礎資料にした。

また、すべての子どもたちが参加できるように、各小学校、中学校、部活指導者及び保護者に、子どもまつり当日の部活や練習、宿題の検討、家での役割の軽減等を依頼した。

### ② 活動の展開内容（活動段階）

第8回子どもまつりは、神埼中央公民館を中心に、神埼保健センター、神埼中央公園グラウンド、神埼中央公園体育館の4会場で38のコーナーを実施。約600名のボランティアスタッフには、子どもスタッフも80名参加。

子どもまつりは、「未来を担う子どもたちが、遊びや文化を通し、“楽しさややりがい”を感じ、“思いやりやさしさ”を育む中で、自分に自信を持ち未来に夢を持って生きる

ことができる人づくり」を目的に実施した。毎年、参加の各団体はアイデアを出し、工夫した。様々な体験の場を提供していただいております、また、ガールスカウト佐賀県第7団等、新規の団体参加も毎年増えていくなど参加者にも喜ばれている。

実行委員会の構成団体、協力団体及び各会場の内容は次のとおり。

#### ○ 実行委員会の構成団体

神埼幼稚園、小桜保育園、神埼双葉園、神埼保育園、西郷保育園、仁比山保育園、大立寺幼稚園、ちとせ幼稚園、城田保育園、境野保育園、ちとせ保育園、せふり保育園、神埼小学校、西郷小学校、仁比山小学校、千代田東部小学校、千代田中部小学校、千代田西部小学校、脊振小学校、神埼中学校、千代田中学校、脊振中学校、すぎの子文庫、子ども劇場、西九州大学、神崎市老人クラブ連合会、母子保健推進員、かささぎジュニア新体操クラブ、絵手紙サークル根っこの会、いきがいデイサービス（神崎市社会福祉協議会）、神崎市食生活改善推進連絡協議会、神崎市消費者グループ協議会、神崎市青少年育成市民会議、神崎市子どもクラブ連絡協議会、神崎市自治公民館連絡協議会、神崎市PTA連絡協議会、竹の会、手話サークル、ミニサッカー、大道芸、キルトハウス「ベアーズポウ」、神崎市レクリエーション協会、ガールスカウト佐賀県第7団、みらいの羽ネットワーク、西九州大学食育サポートセンター、神崎市ゲートボール協会、お話し会ケムケム、ユース千代田、千代田婦人会、脊振婦人会

#### ○ 協力団体

神埼警察署、神埼地区消防事務組合、（株）佐電工、（株）馬場ボデー、（株）ヨコオどんぐり村事業部、（株）PCサポートNB-com、佐賀県看護協会東部地区

#### ○ 「神埼中央公民館」での内容

- ・オープニング（ファンキーサガンキッズによる「一輪車ダンス」）
- ・昔おもちゃづくり（神崎市老人クラブ連合会）
- ・囲碁・将棋コーナー（神崎市自治公民館連絡協議会）
- ・ふれあい郵便・絵手紙（西九州大学生、絵手紙サークル「根っこの会」）
- ・実験大集合（馬原俊浩、子どもスタッフ）
- ・ペン立てづくり（神崎市消費生活改善グループ）
- ・大型紙芝居（いきがいデイサービス「神崎市社会福祉協議会」）
- ・キータッチ早押し大会（（株）PCサポートNB-com）
- ・フェイスペインティング（子ども劇場）
- ・ジャンボしゃぼん玉づくり（西九州大学生）
- ・パトカー・白バイ試乗（神埼警察署）
- ・プラパンづくり（市内小学校教諭）
- ・絵本で世界を旅しよう（すぎの子文庫・図書館司書）
- ・お手玉をつくってあそぼう（竹の会）
- ・子ども作品展（市内小学校）

- 「神埼町保健センター」での内容
  - ・ みんなでつくろう「そらとぶロケット」(幼稚園)
  - ・ 「指編み」(保育園)
  - ・ 子どもクッキング(母子推進指導員)
  - ・ ヨーヨーつり(保育園)
  - ・ おばけやしき(幼)(保育園)
  - ・ ブラックシアター(保育園)
  - ・ 子ども作品展(市内幼稚園・保育園)
  
- 「神埼中央公園グラウンド」での内容
  - ・ サッカーPK大会(ミニサッカー)
  - ・ アニマルランド((株)どんぐり村事業部)
  - ・ 高所作業車試乗((株)佐電工)
  - ・ 自転車ローハイド((株)馬場場デー)
  - ・ ストラックアウト(神埼市青少年育成市民会議)
  - ・ サイクルフェスタ(神埼市子どもクラブ連絡協議会)
  - ・ 消防自動車市場(神埼地区消防事務組合)
  - ・ 火おこし・サモアのおかしづくり(ガールスカウト佐賀県第7団)
  
- 「神埼中央公園体育館」での内容
  - ・ 巨大おばけやしき(神埼市PTA連絡協議会)
  - ・ 風船バレー・羽根っ子ゲーム(神埼市レクリエーション協会)
  - ・ ニュースポーツ(西九州大学生)
  - ・ 南京玉すだれ(みらいの羽ネットワーク)
  - ・ 手裏剣投げ( )
  - ・ アートバルーン( )

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

実行委員会を度々開催することで、実行委員相互の意思疎通が図られ情報を共有することができ、お互いを認め合い、様々な場において活躍することができるようになった。

また改めてそれぞれの団体には子どもたちの体験することの重要性を理解していただき、実行委員会への参加の拡充が図られた。

## 事業の成果と今後の課題

子どもまつりは、すべてのコーナーが子どもたちに体験させる(自分で作る、遊ぶ、体感する)という考えで実施した。終了後行ったアンケートでは、「知らなかったことを教

えてもらったり、やれなかったことをやれてとてもおもしろかった。」という子ども、「子どもたちがいろんな体験ができるので感謝している。」との保護者の感想が多数あったことから、特にボランティアの大人たちにとっては生きがいと励まし、感謝をいただき、その後は異世代間交流が進められている。子どもたちは、子どもまつりで体験した感動を、家族、友だち、学校で話し、情報が共有されるようになっていく。

現在では、子どもまつりを通して、子どもたちと地域の人たちとのコミュニケーションづくり、子どもまつりの定着、実行委員会への新規参入団体やボランティアスタッフが毎年増加する傾向である。子どもまつりの実施により、住民には自分のやれることを見直し、お互いを認め合い、実行委員のそれぞれの活動内容を理解し、各小学校の総合学習等でも活動している人が出てきている。

また、この他にも団体相互に協力し合ったり、地域に出向いたり、市の人材バンクの中で活躍していただいたり、更にデイサービスのおじいちゃん、おばあちゃんたちが製作した「手づくりジャンボ紙芝居」を小学校で実演していただき、子どもたちがデイサービスに招待されたり、相互に協力する体制が自然にできている。

今後は、毎年参加者が増加し、多くの子どもたちが様々な体験を待ち望んでいるこの子どもまつりを体験活動支援センターでどのように推進拡大していくかが課題である。

## 【第8回子どもまつり】平成18年11月26日（日）実施

神埼市中央公民館、神埼町保健センター、神埼市中央公園グラウンド、神埼市中央公園体育館の4会場で開催。



「ジャンボしゃぼん玉」  
シャボン玉の中から世界が見える。



「昔あそびづくり」  
どんぐり、木の枝等でおもちゃづくり。  
自分で思い思いにつくり、宝物。



「手裏剣投げ」  
手裏剣投げの体験。子どもまつりなら  
ではのメニュー。



「羽根っこバレー」  
羽根がどこ行くかわからないバレー。  
真剣です。



「みんなでつくろう『そらとぶロケット』」  
風船がロケットに大変身。子どもは夢中。



「子どもクッキング」  
自分で作って自分で食べる。好き嫌いも  
どこへやら。みんな一生懸命です。



「ふれあい郵便・絵手紙」  
絵てがみを描いて大好きなおじいちゃんに  
出します。



「昔あそびづくり」  
竹馬づくりに挑戦中。  
出来上がれば外で遊びます。

執筆者職・氏名：神埼市教育委員会社会教育課 社会教育主事 宮崎はつよ

#### コーディネーターからの一言コメント

子どもまつりに集う子どもの生き生きした表情が浮かぶ。携わる関係者の意気込みが伝わる。地域を挙げての「まつり」の実現のため、参加者・参加団体の連携協力、協働を演出する社会教育主事の努力のプロセスを理解することができる。子どもたちのためならと地域の大人たち、感謝する保護者・学校、それぞれが自然体で機能しているのが素晴らしい。

(坂東 侑司)